



# 平成31年(2019年)産も

## 「需要に応じた米生産」と「水田フル活用」に取り組みましょう!

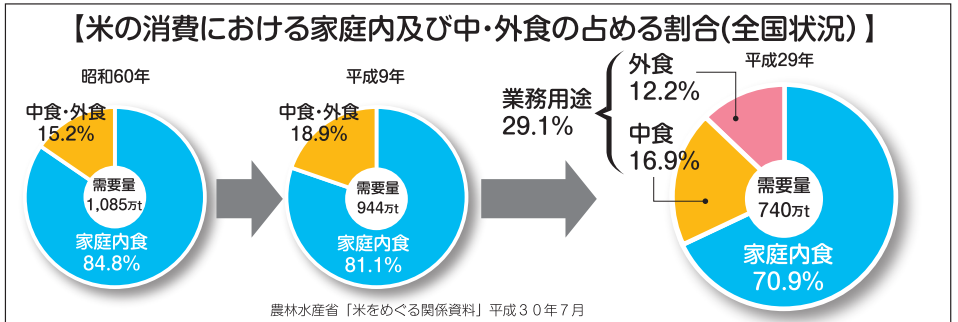
平成30年産から、行政による米の生産数量目標の配分が廃止されました。

これからは**生産者、農業団体、行政等が一体となって、「需要に応じた米生産」および「水田のフル活用」に取り組むこととされています。**



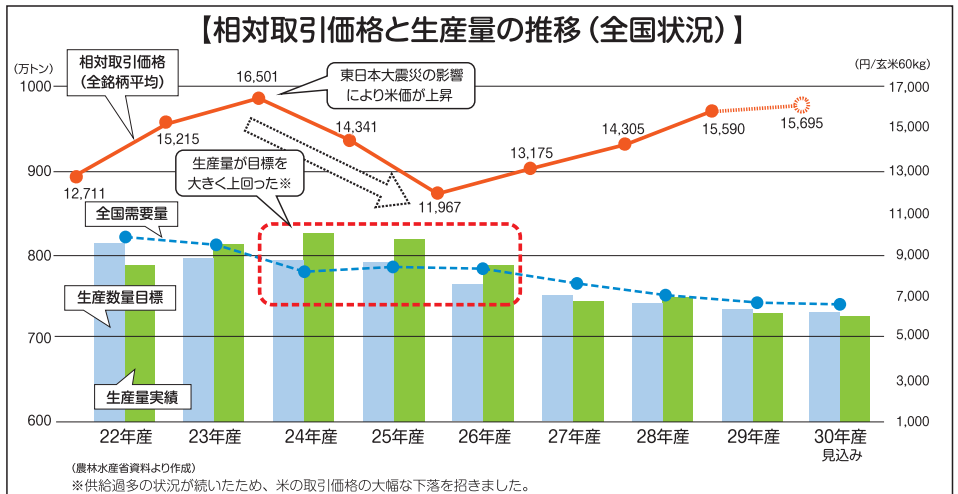
### 米づくりをとりまく状況はどうなっているの?

- ▽米の需要量(全国)は、年間約8万トンずつ減少していく傾向にあります。
- ▽米の販売先の割合は、家庭消費が減少していく一方、中食・外食の業務用が増加傾向にあります。
- ▽用途やメニューにより、求められる品質や価格が異なるため、多様なニーズに応じた生産が必須です。



### 米ばかりの生産では・・・

- ▽米の生産過剰による、米価下落や過剰在庫の発生が懸念されます。
- ▽富山県は六条大麦の産地として全国第2位、大豆の産地として全国第8位の生産量を誇ります。\*
- ▽麦・大豆の生産量が不安定になれば、実需、消費者からの信頼を失うことになりかねません。  
\*平成29年度農林水産省統計による
- ▽ブロックローテーションなど、従来の土地利用体系が崩れれば、担い手を中心とした水田フル活用や、地域農業の発展が阻害される恐れがあります。



## 平成31年(2019年)産米の生産に向けた取組みは?

### 水田農業の活性化・農業経営の収益性の確保に向けて



#### 富山県農業再生協議会は

県全域で「需要に応じた米生産」や「水田フル活用」に取り組むこととし、できる限り生産現場での混乱が生じないように以下の情報を提供します。

- 1.全国および、県産米の需給動向等を踏まえて  
**「米の生産目標(数量・面積)」を設定、提示**します。
- 2.水田フル活用に向け、円滑に作物選択できるよう、  
**「作物別の生産方針」を設定、提示**します。

#### 国の支援策は

- 全国の需給見通しや価格動向などの情報提供は引き続き行われます。
- 水田活用の直接支払交付金やナラシ対策等による支援は引き続き行われます。
- また、平成31年(2019年)からは新たに**収入保険制度**が導入され、農業者の経営の実態に合わせて、補償制度の選択が可能になりました。

# 平成31年(2019年)産米は、



## 各地域で“前年並み”の生産目標に沿った生産を行い、

## 県全域で「需要に応じた米生産」に取り組みましょう!

### 富山県の生産目標は“前年同数”として設定。

※全国の需給動向だけでなく、県産米の需給動向等を踏まえて設定。

○全国生産目標は、近年の人口減少の影響等、需要量減少が一層進むと見込み、718~726万トン(対前年9~17万トン減[▲1.2~▲2.3%])とされました。

○一方で、富山県の生産目標は、

- ① “高品質・良食味の確保” や、“消費者や実需者の多様なニーズに対応した米づくり” 等の取組みにより、本県産米の需要量が堅調であること
- ② 農業者の米生産意欲にも十分配慮すること
- ③ 地域段階での大豆や大麦、園芸作物などの計画的な水田利用が図られていること

などの状況を考慮し、**県段階の生産目標(数量・面積)を前年同数**としました。

提示された生産目標を  
参考に需要に応じた生産

### 水田フル活用に向け、地域で創意工夫し、独自の“生産方針”に取り組みましょう。

- ① 県農業再生協議会は、円滑な作物選択が行われるよう、県段階の「作物別の生産方針」を提示します。
- ② これを受け、地域農業再生協議会やJA等は、地域の生産方針として、「地域農業成長産業化戦略(地域戦略)」を更新・提示します。
- ③ 生産者等は、提示された生産方針を参考に、翌年産の作付計画の検討や土地利用調整を実施します。(「米の生産目標(数量・面積)」を踏まえつつ、「作物別の生産方針」を参考に作付作物を選択)

作物	県段階の生産方針(概要)
主食用米	①高品質で美味しい米づくり、②「富富富」の戦略的導入、③業務用等のニーズに応じた品種選択や複数年契約の推進などにより、需要量を確保
非主食用米	加工用米や備蓄用米、新規需要米(飼料用米、米粉用米、輸出用米等)は、実需者とのマッチングを図るとともに、地域の実情に応じた取組拡大を推進
大豆・大麦	水田農業の基幹作物として、大豆は生産拡大、大麦は需要に応じた計画生産を図るとともに、生産性向上を推進
野菜等の園芸作物	野菜等の園芸作物は、「1億円産地づくり品目」を中心に産地ブランド化を進めるとともに、積極的な生産拡大を推進
ハトムギ、そば、薬用作物等の地域特産物	ハトムギ、そば、薬用作物等の地域特産物は、栽培技術改善や商品開発・販路開拓などにより生産振興を推進

地域の実情を踏まえた  
地域独自の生産方針